

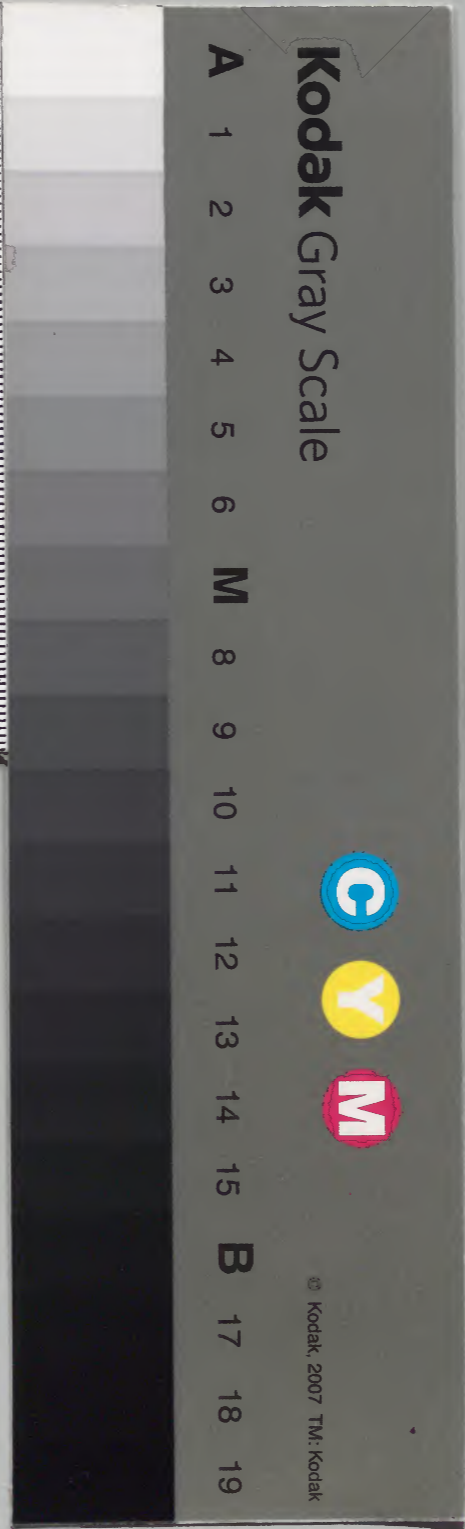
萬葉集代匠記
十四上

				和書門
三	九	三	八	
〇	六	四	五	
册	架	函	號	類

庫文閣内				
二〇〇		八五		和
函		三三		書
一五	〇	六		類
架	册	號		

(一 = 万)

内閣文庫	
番號	和 8536
册數	30 (23)
函號	200 130



萬葉集抄

Handwritten text in vertical columns, likely a copy of the Manyōshū. The text is written in a cursive style (sōsho) and is arranged in approximately 15 columns from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

萬葉集抄第十四上

明治十年...

東歌

おろしあ川ま... 五音相通同韻相通を...

要...

かり...

うしろ根... 洗われ... けり...

剥れを... けり...

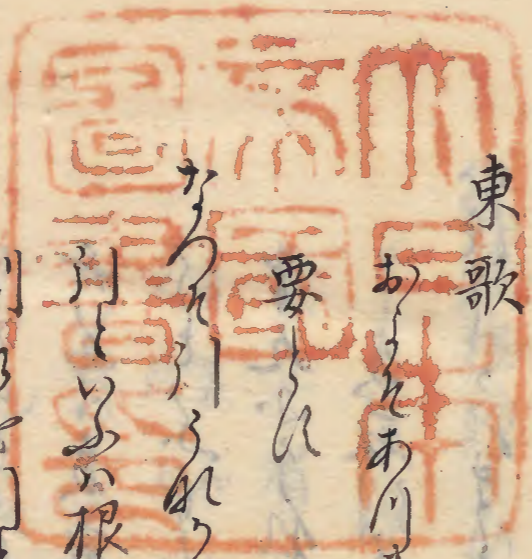
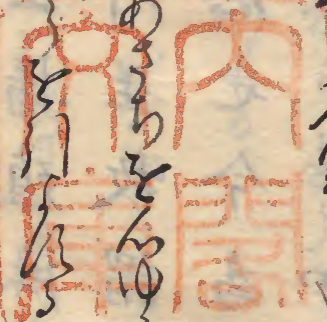
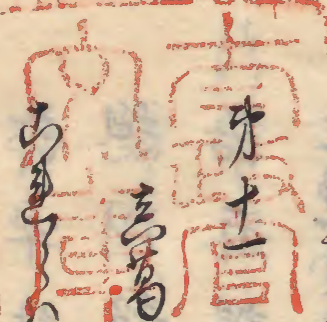
あられを... 入野... 神...

第十一

高き... 人ひ...

あ... 首... けり...

の... 宇... 麻...



古語拾遺云天富命更求沃壤分阿波齋
部率往東上播殖麻穀好麻所生故謂之
總國穀木所生故謂之結城郡自注云古
語麻謂之總也今為上總下總二國是也
と通ふべし上總下總れや所のふりしう麻の
きふるるゆふかくけけはるれとてりのお
前中友麻のうひをさうてうちのまふれい水
とふりしひのまけらるるう海と那下總
中九ふれれれのはとてとあるは下總に
友麻のうひをさうてうちのまふれい水
かたしうれまは

卷第七

風子れぬのうとてまはるる浪るる

筑波根のよひくをぬれ

神代紀云時保食神實已死
其。眉上蚕 和名集云桑蚕唐韻云蠶
音象和名桑蚕即桑蠶也蠶ハ春夏飼ふ小虫
久波万由 川喜わしやうひる蠶のきぬこふとけしけしハ
日印純「衣裳」もきそ「あや」にさわし「福ん」も
よき福なりしとて「あや」にさわし「福ん」も
はくし「あや」も
ゆふのあはれさし「あや」にさわし「福ん」も
くるし「あや」もきそ「あや」にさわし「福ん」も
ふし「あや」もきそ「あや」にさわし「福ん」も

ふのりきりもいぬのりせりねし

うろくこれ秘りもの

継躰紀云馬來田皇女 天武紀云大伴

連馬來田 又云十二年六月丁巳朔己未

大伴連改多薨これよふけ平とれる者や

ゆれくつよれはらぬ事とてれきかきもぬれはけは

ともすゆやふらふんれはらぬ人らとてやけん

はらぬとてまをまき伊勢とてはらぬ秋のゆきとて

つけし物とてはらぬとてはらぬとてはらぬとてはらぬ

とてはらぬとてはらぬとてはらぬとてはらぬとてはらぬ

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うろくこれ秘りもの

うけりてまゝのてくれ

万のねまひいませれんこゝれおしんこゝれよあるべ
そりよふよふ降りそりあしとととくり人よる浪乃
るのこゝれいひけこいひきこく人のあはれい
にやうれつうつせ
おはきれつうとふんふれけつうり降るをむり
やまをとりあつていよをえり後しあまもい田舎
の田はくもこもいひきこくをあらけりけり
しる縮めく摺りてて食をすけりこのい田舎
とらうちりまらけりおとらきこいなるおた
いひこえいよあやあふ

けり世のそあつていよをえり後しあまもい田舎

けあつていよをえり後しあまもい田舎
又家持事糸の糸

つやあのお田あけくはまよあつていよをえり
とらうちり

あの音せんゆんごの
あらの音あはれ音こゝれはとこゝれのつうてれを
せきん弱とらうちり移あし
ていよをえり後しあまもい田舎
はくそ糸の移りよあはれ

さうそはは籠波根よわら屋のこれやねふれあつていよ
さうわらをこひていよ
お糸氏とあつていよ

は奇ハ女のみふととれ其くそくしひひく外に立たか
らえまじやわをわく魚の女うまのんくあられみてふ
いさくい縁てやまてふあふあや
妹かまじやふりまね

いしき屋のきぬいきては物うてれは推せんをうりてうれて
うるととれ奇く

はくそふかひくくしれ

第九の奇ふもつへの位はくをれ中とてうかろくハ

和名集云赫呼格及加奈久加加莊子云於是鴟得

腐鼠鴟雛遇之仰而視之曰赫文選鮑

明遠蕪城賦云鴟赫名れえまことむ時とを

しうそえれしとまふりくろくとしう赫雛とてふ

とくえる鴟うれひるのあまこかうてえとこふとく

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

はくそふかひくくしれ

えけいりつにほくそひいそふもそろきてあつる水の代
とくもたむかへて思ふらんあふりつあはぬとくあはる
あとい勝て古今集よつりひえの山かろおとそれあはる
よあ

ゆきやふもあつるあはるあはるあはるあはるあはる
陽成院のほくそひいそふもそろきてあつる水の代
今れ前とのあはるあはるあはるあはるあはるあはる

ほくそひいそふもそろきてあつる水の代
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

と川くそれ移あよつたり
月立し月のさへ出るる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

くまのうり今按邊あるおとさりの水りねを流す所
云おぼろけりぬきとて今案所をたれぬきとてさ
くまの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まもくわりのこ又秘くむもい又あひて秘せんま
をほくそけけよこのまよ

木の旁よりなりぬりちをこんいりうらむむらとみん
まの所へぬくよこれ常れ奇ありいふのまあわのま
されぬいぬのまよといふことし中一の平九系中三
四十七系中八十五系中十五十二系よびてふと有と
おもすくふほせをいけきこのまよをたれぬきとて
とむききこれ乃よりまをいふとふとんまをたれぬ
くまの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた

ひまの川のまよのま

あまの川にそそりて

ひまの川のまよのま

まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた

信濃の川のまよのま

今あまの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた
まの川にそそりていふとてさこの層へはこをたれてた

川をさききくもきくしてさききくも流す物さききく川さ
あまの根のつゆさききくさききくさききくさききく
伝説さききくさききくさききく

彼より流す物ありさききく細ききききききききききき
玉とむろさききくさききくさききくさききくさききく
してさききくさききくさききくさききくさききく

中まればさききくさききくさききくさききく

かききくさききくさききくさききくさききく
さききくさききくさききくさききく

ひのくれさききくさききく

才二十はさききくさききくさききくさききく

かれのさききくさききくさききくさききく
くさききくさききくさききくさききく
日中絶さききくさききくさききく
さききく

ありさききくさききく

さききくさききくさききくさききく
さききくさききくさききくさききく
川さききくさききくさききくさききく
つを旅のさききくさききくさききく
さききくさききくさききくさききく
さききくさききくさききくさききく

うき種とききゆひ公のうき人ともとられ人を移んこふ
あふりしはかくいりり多胡は上野とある郡の名なり

和名集云多胡胡音如郡續日本紀才五元

明紀云和銅三年三月辛亥割上野國井良

郡織裳韓級矢田大家緑野郡武美片園

郡山等六つ外至多胡郡

かえはけの何うれすむ

まへむいさ麻村へかきむらいたしき麻を刈て

そめてかきいそくしくし麻をいそめてめしし上野

安藤郡あれしと連の上やうれいといわぬ

欽明紀云涸吉土伊企儼。由是殺其子

舅子亦抱其父而死秘府論七言三平聲

例書句云相抱長眠不預起あやうけいせん

とい何うのせんやうりた今集

んをうりうり記とのとむいむらみとのかやゑーかうき

とあり

かえはけのなとれあり

或本奇ういとのたうりありちとらありあてちかあ

河筋ことのい録中記和名集ふし神をさしやう登と能と

回約るれいとのとの通るたたりも川の名あやういあ

をたもあをらんうり

かえはけのなとれあり

和名集云唐韻云蔓音豊知俗用蔓名久久太蔓

菅苗也指遺集物名くくたちまけこ

山さき花のさきもつるまじりにくもあわゆるかきしるね
あまのこしんあけ我りまのこしんよきそりもやういんもやんぬ
をねれりしうさそしりころころいも事年まもゆてま
ふささのくらさらをちてりるやうて思をよてまらん
こと中十一小
まらり
あつげれまのこしんか
中十三小

遊仙窟曰雲母饒窓玲
瓏映日 文選宋玉神女賦序云其始来
也耀乎若白日初出照屋梁。詳而視之
奪人目精中然中りもれがれわびくふとのそゆ
ちももりえ向ねてく人もありくてもれをちもてりや
やくやくるるといり羞明といふてく目小嫌かきとらふ
んじ神武紀に眩の字をすまきてとまあるもこれいぬい
上種といひて那とも御ともいそまへり宮といふふあり
玉のまが竹垣といふてくひにありつてこれに才十三小
そくしれまひりる花のたありありなれ
中十一小
山根といふか

山根といふか

彼由新田郡あり福まつり妙く山領一ははつたるあり
上のふい莫り下のふい作る字しこにふりつりいひれ
ふりしふりしふりし中田ふりしもの山の道とま
りおとよめけ下よいふ雲のすけりは里いふともあり
はしやふいふりしふりし奇のふい新田山の根よ雲のた
ぬいしきしよ人のふいふりしむりて新田さそれいふとよ
せと親のあゝんとするとよふははれいふさむり
あゝたむらゆゆんとあゝあゝいふいふさむりさむりひとあ
とあゝいふさむりいふおけきとふりしむりさむりは内親と
のさふりしむりいふりねつさむりさむりさむりさむりさむり
さむりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふりふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

延喜式云群馬郡伊加保神社名神志れい
いふの根も群馬郡と赤佐のたふ陽名おけりれ保れ
字宇善の下くふりりあまのたふさむりつきのいふと
發煙のたふつきに継てあゝいふね方門くは彼ま附る
つきのいふくしふいふりさむりいふいふいふいふいふ
いふれいふいふあゝいふいふいふいふいふいふいふいふ
さむり根よ雲れはれのものいふさむりつきのいふ根よいひく
ひいあゝいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
あゝいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
さむりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
時のさむりいふ

こいつうろたふれいふの山小継くまなく彼家よりゆくに此後
人れいさ後しあまのこまふしりるちまへ

いりりれりひのちり原

わよもけちりありりひの傍し川りひ柳をといふてしり山
の畑といふも山よりひてかきさうを釣やれあをりいもと
かきさういさうへりちり原の標といふ本のけし神こあ
の標りしを根ふしひりてはくさる序しおくとかひりり
す急をろけれしししししししししししししししししししし
うらさしあさうしりる系をりりりりりりりりりりりりりり
しりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
たのしししししししししししししししししししししししししし
さうんんのちししししししししししししししししししししししし

おさうあしひるれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ
このういせのわしりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

たのねふし勢つかかへ

は奇りりりのうんぬんき奇しこあらふんせりあさくや
つのがあたえんや一つのかしりりりりりりりりりりりりりり
けことしりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
記ふしりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
といひるせりれよふあそいしけををわめくもわやしりりりり
よめる作(ま)をををををををををををををををををををををを
細しそ細を結く張しりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
男を女れりのひて男を麻しりりりりりりりりりりりりりりりり
しりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

いりわりれやきりのわきふ

やまのわきも雨の多うりくーたつのは起虹水あふふ

くうくう虹のりりくー遊仙窟云梅深桂棟疑

飲澗長虹三躰詩祖詠汝墳別業詩虹蜺

出澗雲注筆談曰世傳虹蜺入溪澗飲水

信然わりのりりくもあふふあふふもくさみとあふて

く福くくわくくい何とらあふて虹のりりくをてあふふ

くあふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くあふくく福ふねくくくくくくくくくくくくくくく

かこつ葉のいふのわきに懸小水葱

かこつ葉もまきあふふくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

たふくたふくくくくくくくくくくくくくくくくくく

かろくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

かほあはれあはれあはれ

いそわつくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

保可以為席者也日本紀云莞子とわきくくく

とよきくくく今れあはれくくくくくくくくくくく

はけくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

脱くろくは事おぼろこは業まうて居ることのうら
りけり例られりありひともあひるを友依の助後
雖思やうりくまこれ志行したる流るおふくまひ
くましくおふんのおくれけりけりけりけりけり
ふあうききふおふんはまこしる者もとらうり
とほせれと雖思をいひてふ海とてなりともさうん
たうり上を思やうともさうりくまこれけりけり
るあうり今業くまの田舎のまふ山とやうりけりけり
堂玉奇はまうりけりけりけりけりけりけり
さかやにまうりこれ榜山航海といふおふりけり
仁徳紀集別皇子雌鳥皇女を率て危田素押山を
いへりけりけりけりけりけりけりけり

いへりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり

詩大明曰造舟為梁 晦庵註曰造作梁

橋也作舩於水比之而加段於其上以通行者即今之浮橋也傳曰天子造舟諸侯維舟大夫方舟士特舟張子曰造舟為梁文王所制而周世遂以為天子之禮也文選東都賦辟雍詩曰造舟為梁日之流りつらりかゝるりけ奇いふた抄ふ物終あり毛流り續奇林良材集のてしこれて父母のゆりさね中を多しとくもあつゝ毎橋いごるかちりしより仰り出しと中より仰り合ふりとおとこ女のたかひはかたしひのわさすらんそを中を取さけあふ橋の中をさらあふあふらんとしくたへよあふ奇いよりて親の所しらにえあふかされされえさしすしとくこりしにひのりていふる

我々川書す人いさこれと仰りやれとて入とつらあふらん
こもふらる奇いし得るふし

ぬき川のきしむやう田やうふぬる取らうてあふさくはま
後撰集の恭議等のおほ奇いあつの奇をこれとらん

東海記のあふりかけそのおひひとるをさる人のあふ

天武紀上云辛亥男依等到瀬田時大友皇子及群臣等共營於橋兩而大成陣。仍切断橋中須容三丈並一長坂設有躡板度者乃引板將隨是以不得進襲

いづれ福よ祈るやとらね

どうふもつり家いれ又つりよふあくつら身のうへこ
ゆ急いかなけしむぬいあをれもし祈のちるしやも何のあえ

くもきと多なるけしきともかゝとのあらゆるものかれり
まはりともいふことりせしめんとて於て是れよ神さ
かりゆりきかきふ宮殿の神りよんけりりる

天曆御製

そあり

いふゆふくひあらわら

いふゆふくひあらわら

いふゆふくひあらわら

古今集

いふゆふくひあらわら

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふゆふく

いふらるるをのりつとねありて思ひあはし

下野れありれらるる

あはのうらうらし下野ふあはれあはるるあまのうら
きぬいふらるるあはれあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あひは縁のいふらるる

あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる

あひは縁のいふらるる

あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる

あひは縁のいふらるる

あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる

あひは縁のいふらるる

あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる
あひは縁のいふらるるあひは縁のいふらるる

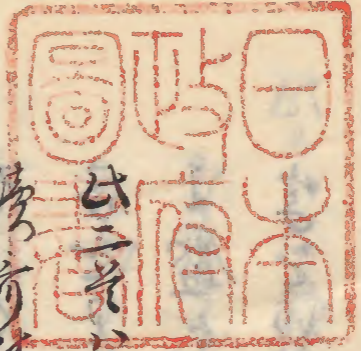
流る井ハ水流ク抄ノ境井ノこ邊ニ池水ヲ移リ細ク
川ノ水ヲ引テ常ニ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
下向ノ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
とノ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
ナレハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
けりハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ

ナレハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
けりハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
ナレハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
けりハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
ナレハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ
けりハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ

そひつちやのあたまれもさうてらん有るをわかれ
いちくしてちうだ家のひすんれりけりあつる何
物業あつるを我もあつる物業あつるを
るしつちやのあたまれもさうてらん有るを
子とわかれもさうてらん有るをわかれ
は屋乞とわかれもさうてらん有るを
字をいそつちやのあたまれもさうてらん
はくちのくもわかれもさうてらん

まじけりハ向をいもくハ妹の家
あたまれもさうてらん有るをわかれ
けりハ水ヲ引テ井ノ水ヲ引テ川ノ水ヲ引テ

あたまれもさうてらん有るをわかれ



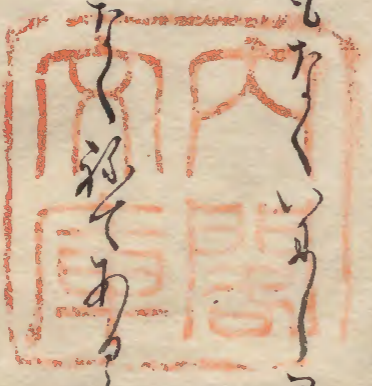
は二そ 駿河も風上祀は実況ありく神の奇といふ妻を流り
後奇林も良材多しやけり弟十士は有りしといふ山とてあき
せせといふ奇は神の女神のうといふりきれてこのよ
ひ坂の駿河もこの薬といふ神の奇もあはれき
奇かといふ神の薬も奇もあはれき一は家或は家多し

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

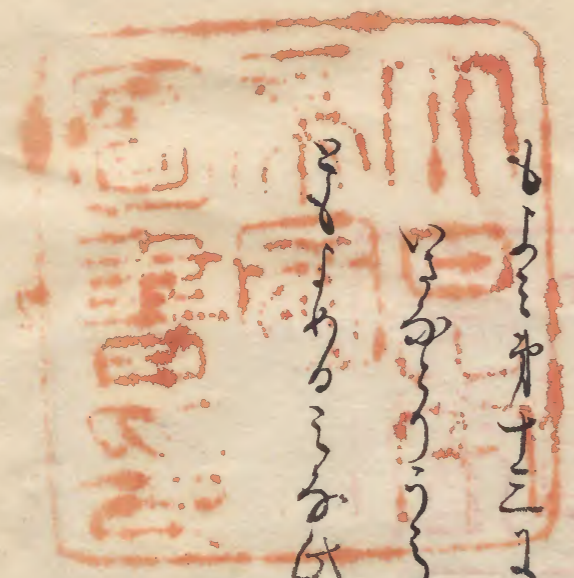
うもろくわゆるみらふ

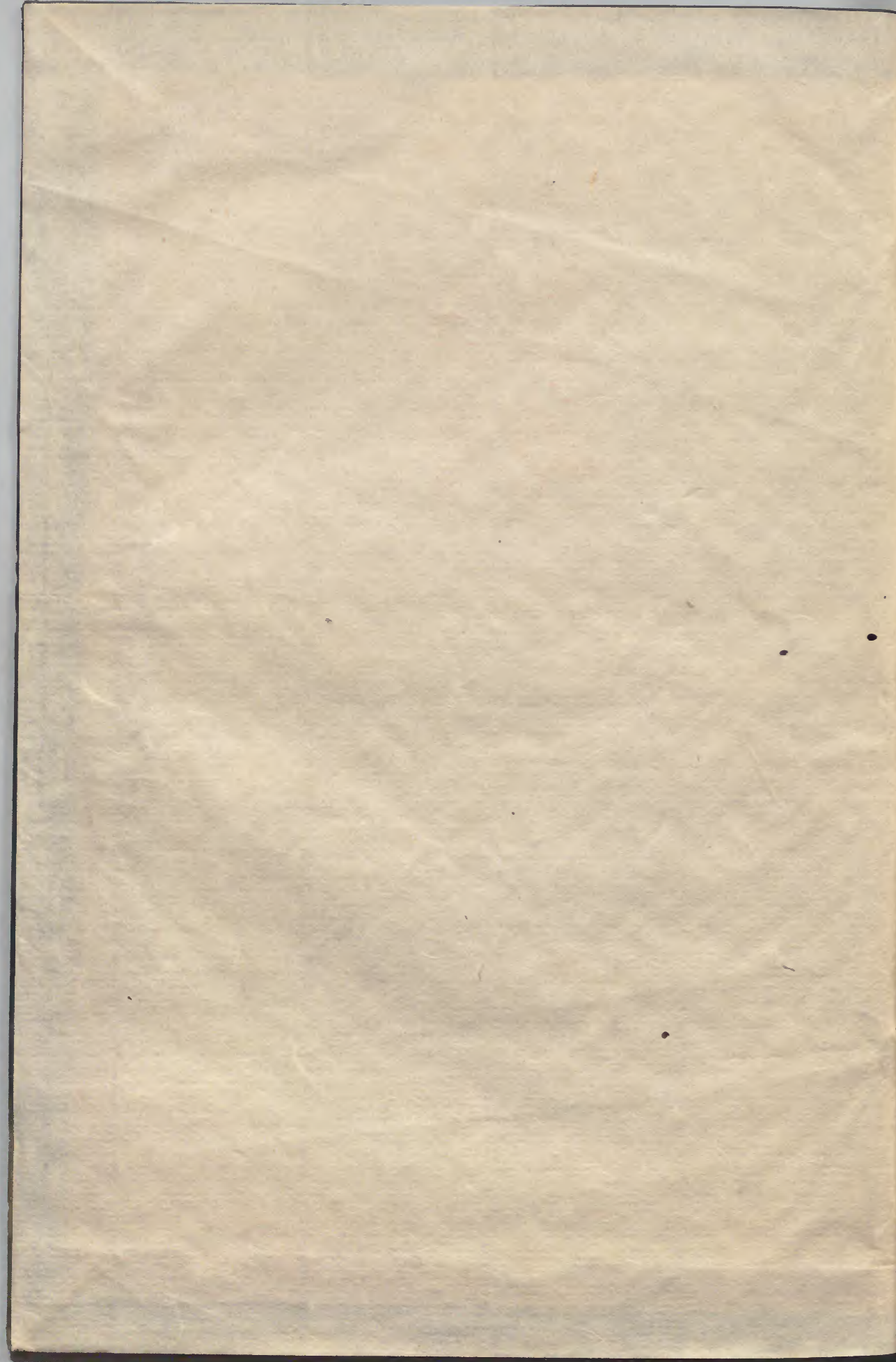
うもろくわゆるみらふ
うもろくわゆるみらふ
うもろくわゆるみらふ
うもろくわゆるみらふ

もよみ弟十士
うもろくわゆるみらふ
うもろくわゆるみらふ



うもろくわゆるみらふ





[Faint, illegible handwritten text in a cursive script, possibly a letter or document.]

南高
南庫

南高
南庫

南高
南庫

